

オリンピックコンサルタントと大垣西濃信金



寄贈した辞書を前に宇津慎一校長に目録を手渡した
長瀬功一社長(中央)＝大垣市小野、小野小学校

小野小に国語辞典寄贈

上下水道設計など建設コンサルタントのオリンピックコンサルタント(大垣市小野)と大垣西濃信用金庫は22日、同市小野の小野小学校に国語辞典36冊(10万円

相当)を寄贈した。

発行手数料の一部を企業が指定した学校などへの寄付に充てる同金庫の地域貢献型私募債「絆」を活用した。学校の近隣にあることから、3年生の国語の授業で使用する。

長瀬功一社長(56)と同金庫の佐分康高笠縫支店長が学校を訪れ、宇津慎一校長に目録を手渡した。長瀬社

長は「デジタルだけでなく、アナログも大切。学習能力を高めるためにぜひ活用してほしい」と述べ、宇津校長は「辞書を使い、子どもたちに学習をする基本の力を付けさせたい。この小学校とこの地区を大切にできる子どもたちにしていききたい」と感謝した。

(鈴木隆宏)